

災害時のトイレはどうする？ ～ジェンダーの視点で考える防災～

あびこ女性会議

1 地震発生時 水洗トイレはすぐには使わない

地震発生 水洗トイレが、使えるかどうか確認しましょう。

便器やトイレ周辺は壊れていないか
 停電していないか 断水していないか
 配水管は壊れていないか
 下水道は使えるか(市からの情報を確認)

※トイレが壊れていなくても、水を流さないで。お風呂の溜め水も確認してから流してね!

外出先のお店や事務所、また避難所のトイレも同じ。

確認しないで使ってしまうと、こんなことにも。

2 家庭で用意しておきたいトイレ用品

水を流せないときには「便座取り付けタイプのトイレ」が便利

使い方

- 便座を上げ、ポリ袋を便器にかぶせる
- 便座をおろしポリ袋(便袋)を設置
- 用を足し、汚物を固める
 - ▲吸収シートタイプ:凝固シート(紙おむつ、ペットシート)などで固める
 - ▲粉末状・錠剤の凝固剤のタイプ:用を足す前、もしくは後に振りかけて固める
- 便袋だけを取り出し空気を抜いてしっかり結ぶ
- 密閉できる容器で収集まで保管する

※このタイプはストックもしやすい。使い方を確認しておくことが大切!

消臭剤

密閉できる容器

持ち歩きタイプ

- 持ち歩きタイプの携帯トイレも便利。
- トイレトペーパー、ウェットティッシュ、尿とりパット、リハビリパンツなども備えておくと良いでしょう。

3 避難所のトイレをより使いやすく

避難所のトイレ(仮設トイレ)の問題点。

- ・すぐには設置されない。
- ・男女兼用だと女性が使いにくい。
- ・段差があって高齢者は使いにくい。
- ・和式トイレだと高齢者は使えないことも。
- ・数が十分ではない。
- ・暗くて怖い。不安。
- ・遠くて行きにくい。

みんなが使いやすく、安心して使えるトイレに。

特に女性や高齢者などに配慮されたトイレがほしい。

女性への配慮

- ・男性用女性用は別々に。
- ・女性用を多く(女性のトイレ時間は男性の3倍)。
- ・照明を付けて明るく。
- ・カギも掛かるように。
- ・できれば防犯ブザーも。

高齢者等への配慮

- ・段差をなくして。
- ・洋式トイレの設置を。
- ・トイレまでの経路も行きやすく。

4 安心できるトイレが健康と安全を守る

トイレの問題はつぎの問題を引き起こします。

- 体調不良や病気のリスクが高まる**
トイレに行くのをがまん、水分を控える、あまり食べない。
↓
脱水、便秘、脳梗塞、エコノミークラス症候群などのリスクが高まり、やがては災害関連死につながる恐れも。
- 性犯罪につながることも**
避難所のトイレは人目につきにくい場所にあります。このため性犯罪につながる危険も。
↓
女性や子どもは1人で行動しないことが大切です。

トイレ問題の軽減のために

- 備えよう → トイレ用品の備蓄をしましょう。最低でも3日分。できれば1週間分。
- きれいに保とう → 自宅のトイレも、避難所のトイレもきれいに。

トイレはきれいに使しましょう。みんなで協力して掃除しよう!

あびこ女性会議

代表 佐竹 礼子
電話 04-7139-6219
住所 我孫子市 若松172-3

あびこ女性会議は、1996(H8)年10月の発足から28年となる市民グループです。女性であれ男性であれ、誰もが「男だから」「女だから」といった社会的に作られた性別(ジェンダー)からくる役割分担を押しつけられたり、偏見や差別、不平等を受けたりすることなく、自分らしく生きられる社会の実現を目指すというのが、活動の目的です。
主な活動としては、月1回の学習会・定例会、市との共催イベントです。